

平成28年度 西武学園文理中学校自己評価表

目指す学校像	グローバルな視野と21世紀型スキルを培って、海外も含めた多彩なステージで活躍し社会に貢献できるレディー&ジェントルマンの育成		A ほぼ達成（8割以上）
重点目標	グローバルな視野と21世紀型スキルを培うために学校教育活動全般を通じて①総合的な言語力の修得②異文化理解の体得③日本の伝統文化の理解以上の三点について特に留意してその育成を図る。特に、日常生活面における指導の徹底を図り、自学自習の習慣の強化、情操の向上等により社会から信頼される人格の陶冶を目指す。	達成度	B おおむね達成（6割以上） C 変化の兆し（4割以上） D 不十分（4割未満）

年度課題		年度評価		次年度への課題と改善策	
No.	課題	具体的目標	課題項目の達成状況		
1	教育活動	学力の向上	授業時間の確保に努め、S时限、確認テスト、補講などを充実させ基礎学力の定着を図った。	A	オンライン英会話やオンライン添削等を授業に取り込み、英語の4技能を身につけさせ
			カリキュラムの再編を行い、英語教育(4技能を意識)に関する新たな取組み(2000時間プログラム)を構築し、授業者、生徒双方授業へと転換を試み、中学3年間、中高6年間の授業進捗計画表(シラバス)を全教科で作成し、年度当初の4月に各学年に配布して活用して努めた。加えて、英検や漢検を受験させ、中学3年生の半数以上が上位級に合格した。	A	英検・漢検等の資格試験を積極的に受験させ、上位級を取得させる。
			学力推移調査を用い、各生徒に自分の学力水準を全国レベルで把握させ、学習指導に活かした。また外部模試を受験させ、難解な問題にも取り組ませることによって更なる学力向上に努めた。	B	データ分析を行い、更に有効な活用を図る。
			中学二学年からポートフォリオ学習を意識して生徒各自で自由なテーマを選び、中学卒業時に提出する卒業論文の作成に取り組ませた。そこで体験的な活動や研究を中心に学習を展開するようにし、その過程や研究結果に関する成果物を様々な方法で記録させ、ポートフォリオとしてまとめさせ、卒業論文として仕上げさせた。家庭学習の習慣を身に付けさせると共に放課後の下校時間を有効利用させ、特に定期考査の計画表作成と個別指導、補講を行った。	A	21世紀型スキルをもった人材育成を念頭に新たな教育の構築を図る。毎日の学習時間を生徒自身が把握できるように学年ごとに工夫し、個別指導に役立てる。
		人間形成	学習だけではなく、多彩な学校行事を通し、生徒たちに達成感や友人達との協調の大切さを体験させた。クラブ活動では限られた時間の中で、28年度も県大会に出場するクラブもあり、生徒の努力と成長が認められた。	A	中央委員会を中心に委員会活動が充実してきている。継続できるような的確な指示を与える。
			「総合的な学習(CA)」の計画的な実施と内容の充実を図った。文化祭における展示発表の中で協調性を養うと共に、プレゼンテーション能力などを確実に身に付けた。更にキャリア教育の一環として、狭山市民大学及び狭山市役所と連携を図り、狭山市という地域社会との関わりの中で市全体の活性化に向けて、生徒自身の手で様々な取り組みを行った。最終的に狭山市民会館で、狭山市民を招いてその成果をPPを駆使して発表した。	A	引き続き狭山市民大学とのコラボを行うと共に新たに小岩井乳業と連携し、購買戦略を考え、商工祭で実演することを試みる。開校以来の伝統を守ると共に、より充実した内容になるよう努める。
		挨拶運動(オアシス運動)や頭髪服装指導を通し、端正な身なりと明るい挨拶のできる生徒たちが増えている。いじめについては生活アンケートを実施したり、担任との面談によって防止に努めた。また、薬物乱用防止、サイバー対策、性教育などの講演会を随時実施し、非行防止にも努めた。	B	生活指導では、問題が見られる乗車マナーなどの更なる向上を図る。いじめについては教職員、生徒共にその提議を再認識し、注意喚起を定期的に促す。	
2	学校としての組織的対応	進路指導部との連携	週1回、中学各学年の代表者と進路指導部の担当者が定例会議を持ち、高等学校卒業時に、自己の目標を実現可能にするために必要事項を検討した。また、高校入学後の12年一貫生についての授業展開について検討した。	B	多種多様な才能を持っている生徒の学力を伸ばすための必要事項を確認し、実際に指導に当たる。
		保護者との連携	保護者会、授業参観、保護者面談を定期的実施し、年度当初の学校ならびに学年運営計画を保護者に説明し、理解と協力を求めた。またHPでは、保護者連絡欄を必要に応じて更新し、連絡事項の徹底を図った。	B	claassiを導入し、クラス毎のグループ配信を活用し、学校と家庭の連絡や危機管理について繋がりを密にしている。保護者との協力を一層強化し、教育活動の充実を図る。
		教育活動の対外的報告	年3回発行の『文理ジャーナル』およびHPの「What's New」欄の更新により、学校行事やクラブ・委員会活動の様子など、学校の様々な活動をタイムリーに報じることができた。また、各学年で「学年通信」を発行し、学年の様子を保護者に伝えることができた。	A	内容の更なる充実を図る。
		学習環境の美化と整備	3S運動(整理・清掃・整頓)を推進し、委員会活動を中心に教員と生徒が一体となって学習環境の整備、改善につとめ、特に教室の整理・整頓・整列の可視化を図った。	A	学内で「危機管理委員会」を立ち上げ、有事の際の備えについて考案する。日々の生活の中で3S運動が実践できるようにする。
3	教職員人材育成	授業アンケートの実施	生徒による授業アンケートと学校アンケートを実施した。教員一人ひとりの集計結果は各教員が自らの授業改善に役立て、明らかとなった課題を共有し、各教科指導に反映させた。	B	次年度も各教員の力量向上と学校全体の教育力の向上に努める。
		課題設定表の作成と評価	全教員が「年度課題設定表」を作成し、自ら取り組むべき課題を明らかにし、年度末には課題の達成度を各自で評価し、分掌評価、学校評価へ結び付けている。	B	29年度も、教員の効果的な自己点検自己評価を意識的にできるように工夫する。
		職員研修会の実施	年間を通じ定期的に職員研修を行った。研修は、外部講師または校内担当者に依頼し、「進路指導」「生徒指導」「教育相談」「環境美化」など内容も多岐に及んだ。	A	年間を通じた、より計画的な研修を実施し、資質向上に努める。特に防災に対しては、教職員の危機管理意識を高める。

平成28年度 西武学園文理高等学校 学校自己評価表

目指す学校像	グローバルな視野と21世紀型スキルを培って、海外も含めた多彩なステージで活躍し社会に貢献できるレディー&ジェントルマンの育成	達成度	A ほぼ達成 (8割以上)
重点目標	○旧帝大・早・慶・上・理大・GMARCH等の合格者数を増大させる。 ○Global入試における英語資格試験が利用できる体制を確立するとともに、国際教育と海外大学進学に対応できる進路体制を構築する。		B おおむね達成 (6割以上) C 変化の兆し (4割以上) D 不十分 (4割未満)

年度課題		年度評価		次年度への課題と改善策	
No.	課題	具体的目標	課題項目の達成状況		
1	教育活動	学力向上	アクティブラーニング型授業研修として研究授業を英語・国語・地歴公民を中心に実施した。また、授業時間の確保に努め、例年実施している夏季・冬季・春季・高2生夏季合宿・高3生夏季合宿ゼミ等も行った。	B	21世紀型スキルをもった人材育成を念頭に新たな教育の構築を図る。
			3年間の授業進度計画を各教科で検討しシラバスを作成し、平成28年4月に新入生に配布した。	A	新課程に伴い、授業内容の見直しを検討する。
			全国模試を定期的実施し、各生徒に自分の学力水準を全国レベルで把握させ、また、各種分析を行い学習指導・進路指導に活用した。	B	2020年大学改革に伴う「大学入試希望者学力評価テスト(仮称)」「高等学校基礎学力テスト(仮称)」に向けての組織的な対応を図る。
			イノベーションセンターは定期考査前・考査中等多くの生徒の活用が見られたが、昨年度より若干利用生徒数が減少している。	A	イノベーションセンターの活用について検討を図る。
			理数科先端科学講座の更なる充実を図るため、「ロボット製作プログラミング」「サイエンスイマージョン(実験)」は本校ALT協力のもとイマージョン教育を取り入れた。また、理数科アメリカ研修旅行(NASA・MIT・ハーバード大)を実施した。	A	理数科アメリカ研修旅行の内容を再検討する。
		人間形成	多彩な学校行事を通し、生徒たちに達成感や友人との協調の大切さを体験させ、生徒会をはじめ各種委員会の活性化にもつなげた。クラブ活動では全国大会・関東大会に出場したクラブもあり、生徒の努力の成果が認められた。	A	生徒の安全を第一とした学校生活を充実させ、学校行事・クラブ活動の活性化を図る。
		「総合的な学習」の計画的な実施と内容の充実を図った。自己探求・進路選択・企業や地域との連携などをテーマとしたさまざまな体験的教育活動を行い、文理祭での発表の場を設けた。	A	「総合的な学習」の全項目の内容を見直し、生徒にとってより充実した達成感のある研究活動の場とする。	
		例年の新入生オリエンテーションで新しい友人関係の構築ならびに挨拶運動の推進のみならず、本校メディアポリシーを明示し、SNS等の利用についての研修を行った。	B	生徒指導・進路指導部を中心に多岐に亘る人間形成にかかわる新プログラムの検討を図る。	
2	学校としての組織的対応	進路指導部の改革	積極的に重点項目の共有を図るため、進路指導部会を月2回以上開催した。また、生徒の志望校合格に向けた具体的なプランの実行のため、毎週、管理職および学年主任、教科担当へ提示して共有化を図った。	B	教務との更なる連携強化により、2020年大学改革に向け組織的な対応を図り、進路指導部の体制強化および各教員の進路指導力を向上させる。
		保護者との連携	保護者会、授業参観、保護者面談を定期的実施し、年度当初の学校ならびに学年運営計画を保護者に説明し、理解と協力を求めた。またHPでは、保護者連絡欄を必要に応じて更新し、連絡事項の徹底を図った。	B	高1は新たにclassiを導入により保護者との協力を一層強化し、教育活動の充実を図る。
		教育活動の対外的報告	HPの「What's New」欄の更新により、学校行事やクラブ・委員会活動の様子など、学校の様々な活動をタイムリーに報じることができた。各学年で発行する「学年通信」も充実し、学年ごとの指導に役立てることが出来た。募集においては、各教員が担当エリアを中心に学校広報活動を行った。	B	学校説明会を含め広報活動の内容を見直し、文理高校を広く知っていただくよう更なる充実を図る。
		学習環境の美化と整備	本館Bゾントイレの改修工事、高校全教室の机天板を新規規格に総取替した。3S運動(整理・清掃・整頓)を推進し、委員会活動を中心に教員と生徒が一体となって学習環境の整備、改善につとめ、特に教室の整理・整頓・整列の可視化を図った。	A	他のゾーンの改修・補修工事を推進し、衛生環境・学習環境の改善を図る。
3	教職員人材育成	授業アンケートの実施	生徒による授業評価アンケートと保護者による学校評価アンケートを実施した。教員一人ひとりの評価結果は各教員が自らの授業改善に役立てるとともに、明らかになった課題を教科・学年で共有し各教科指導に反映させた。	A	評価結果をもとに、21世紀型人材育成に向けてより効果的な授業展開の構築を図る。
		課題設定表の作成と評価	「課題設定表」により自己点検自己評価の改善を図り、自ら課題を明らかにすることによりその実践に取り組んだ。年度末には課題の達成度を各自で評価し、分掌評価、学校評価へ結びつけた。	A	「課題設定表」を用いた各教員の効果的な自己点検自己評価の更なる充実を図る。
		職員研修会の実施	年間計画に基づき校内各分掌主任が中心となり、進路指導・生徒指導・教育相談・教育情報・環境整備などが実施した。今年度はICT教育及び防災関連を複数回実施した。	A	研修により教育現場の資質を向上を図る。昨年同様防災に関する意識を一層高め、職務遂行に努める。